クラス番号	611	担当教員名	伊藤　文人
テーマ	魂の脱植民地化：グローバリゼーション／ソーシャルワーク／民衆運動		
著書･論文 研究課題等	伊藤文人（2016）「ソーシャルワークの国際動向（仮題）」『日本の科学者』本の泉社（近刊） 児島亜紀子・伊藤文人・坂本啓毅編著（2015）『現代社会と福祉』東山書房 ITO, F. (2014), ‘Social Work Ethics and Social Justice: the growing gap’ in Ferguson, I. and Lavalette, M. (eds), *Critical and Radical Debate in Social Work*, Vol. 6 (Ethics), Policy Press, pp.56-62.		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：グローバリゼーション、ソーシャルワーク、民衆運動、魂の脱植民地化、共生／対話の作法

私たちの生活を取り巻く「生きづらさ」を考えると、社会の急激な「グローバル化」という現象と密接な関係を持っていることに気がつくことでしょう。この「グローバル化」という圧力は、端的にいえば、それぞれの国や社会の文化的・経済的・政治的障壁を取り払って一元的な社会を創り出す試みです。一見世界の人々との交流がもっと身近に感じられる印象もありましょう。しかし、「一元的な社会」の創造とは、「経済的な価値」を突出させ、人間社会のあらゆる社交形態（交易、関わり）を「お金によって解決しよう」とする試みなのです。

すべての物事を「お金で解決しよう」ということは、私たちの関係もすべてお金次第で作られたり、破棄されたりすることを意味します。言い換えれば、十分なお金がある人は、幸せになれるかも知れませんが、そうじゃない人は不幸になるだろうし、お金を作り出す、お金を持つ力がない人は不幸になって当然だ、という価値観が蔓延しているのです。

この結果、私たちの生活を支える教育、医療、社会保障、福祉、環境に係わる多様な社会サービス（社会的共通資本：コモンズ）は、かなりの実害を被ってきました。高等教育は有償化され、学生たちは借金に追われて勉強どころではないですし、賃金や年金は減り、医療も福祉も自己負担が増大、社会には拝金万能主義が跋扈（ばっこ）しています。このような現象のなかで、私たちソーシャルワーク（社会福祉実践）の世界で生きようとする人たちは、大きな矛盾やジレンマに立たされています。そしてその素朴な疑問から、現状を変えようとする専門職や専門職同士の連帯、さらに様々な社会運動に係わっている個人やグループがこのようなグローバル化に対して抗議活動を繰り広げながら、自前で別の生活システムを構築しようとしています（サービス・ラーニングで展開されている事例はその一部です）。このようにグローバル化に対抗する多様な実践方法（生き方の幅を広げること、価値観の転換）への模索も世界的規模で起きているのです。

このゼミでは、現代社会の成り立ちを「グローバル化」という視点から読み解きながら、そこで展開されている社会の分断状況を日本と世界の事例から学びます。換言すれば、福祉的課題や実践の前提となる社会変動を学びながら、すべてをお金で解決しようとする情勢に対抗する民衆レベルの知恵や対抗手段を学びます。その上で、そうした知恵をどのように私たちが福祉実践に活かせるかを考えたいと思います。これは私たちの中に知らないうちに刷り込まれて固着してしまった「所有欲、独占欲、金銭欲」によって社会は成り立つのだという常識への挑戦（魂の脱植民地化）です。歴史的にいっても、ソーシャルワークは資本主義社会の強欲な側面を抑制する役割を担ってきた部分があります。

みなさんにはソーシャルワークに対する多様なイメージがあると思います。勉強をしていく中で、グローバル化と福祉の関係が見えてくるはずです。個別の関心をこの視点から読み解きながら、それぞれの問いを明確化していく作業をしていきたいと思います。自分の考えを分かりやすく他者に伝えて言語化していくにはそれなりの時間と忍耐が必要になりますが、徹底的にそこに「こだわる」ことを学生時代に経験しておくことは、将来にどの世界で生きていく上でも必要とされる過程でしょう。共生を想像／創造する知的な対話と作法をみなで作り上げていくことは、とても楽しいものです。特に３年生後期は、週に一冊本を読んで討論する作業を実施します。これをやれば卒論など楽勝です！

日本と世界のソーシャルワークの架け橋になれるような実践をしてみたいと思っている方は、是非一緒に学び合いをしていきましょう。

担当教員からのメッセージ

私自身は、日本国内はもちろん、ヨーロッパ全域や東アジア（香港、中国、マカオ、台湾）の福祉研究者、実践者、アクティビスト（社会活動家）と実際に出会いながら、グローバル化とソーシャルワークへの影響について研究をしてきました。世界は多様です。そのこと自体がとても価値あるものなのに、世界は強欲な価値観に引き裂かれており、ソーシャルワークは大きなジレンマの中にあります。世界と日本の成り立ちに関心を持ち、人々を排除せずお互いを活かし合っていく新しい社会を創造していくひとつの実践としてソーシャルワークの価値や倫理的根拠はどこにあるのか。そうしたことを深く考え、言語化し、行動していく地盤を作っていきたいと思っている学生さんと出会えることを楽しみしています。自主企画を含めて学生人一人が自分で役割をつくってゼミの運営に参画することを望みます。質問があれば、bunjin@n-fukushi.ac.jp までお願いいたします。